

【論巧】なぜ、誰も吉本隆明の責任を追及しないのか

なぜ、誰も吉本隆明の責任を追及しないのか

五十嵐 仁（法政大学大原社会問題研究所教授）

「ブログ 五十嵐仁の転成仁語」―掲載2012年4月9日（月）

〔以下の論攷は、八王子革新懇の機関紙『革新懇話会』第53号

（2012年3月25日）に掲載されたものです〕

吉本隆明氏が亡くなりました。八七歳でした。

その死を報ずるに当たって、最大級の評価と追悼の言葉が、テレビや新聞で報じられていました。「どうしてこれほど？」と、いぶかしく思われるほどの持ち上げぶりです。

三月一六日朝七時のNHKニュースのトップが、吉本の訃報でした。夕刊各紙も、多くの紙

面を割いて吉本の業績を紹介したり、識者による死を惜しむ言葉を掲載しています。特に、『朝日新聞』は一面で大きく報じただけでなく、対抗社会面の半分以上もの紙面を割いて追悼の記事を書いていました。さらに、翌日の朝刊一面下のコラム「天声人語」でも取り上げ、「時に戦後最大と称された思想家」とまで書いています。

他紙でも、「戦後思想の巨人」とか「戦後の思想界を代表する評論家・詩人」などという賛辞が溢れていました。あの石原慎太郎知事までが、「権威に反抗するオピニオンリーダー。1つの世代の象徴的な存在だった。残念です」と悼んだというのですから、呆れてしまいます。

慎太郎に評価されるようになったらお終いです。吉本もその程度の「思想家」だったということでしょうか。

しかし、忘れてならないのは、吉本思想と言説が全共闘運動や新左翼の学生達に多くの影響を与え、その思想と行動を励ましたということです。日本共産党など「既成の左翼運動」を徹底的に批判して「新左翼」の「教祖的存在」となったこと、全共闘世代の若者の熱狂的支持を受けたことは、当時の若者であり、学生運動に関わった私も良く知っています。

そして、その言葉に影響され、これらの過った運動へと足を踏み入れて暴力をふるったり、暴力によって負傷したり、命を失ったり、人生を狂わされた学生や青年達が多くいたことも良く知っています。そのような暴力学生の一人によって、私は旗竿で右目を突かれ、失明させられました。今も、私の右目には義眼が入ったままです。

【論巧】 なぜ、誰も吉本隆明の責任を追及しないのか

私の右目を奪った学生の思想的淵源の一つが吉本隆明であったかもしれませんが。このような暴力を生み出し、内ゲバにまで至り、惨憺たる結末を迎えた全共闘運動や新左翼運動に対して、「教祖」として思想的な影響を与えた吉本隆明には大きな責任があります。

また最近も、「『原発はもう廃止したほうがいい』という声が高まっているのですが、それはあまりに乱暴な素人の論理です」と述べて原発を支持し、脱原発運動を批判する発言を行って顰蹙を買いました。晩節を汚したということでしょうか。いや、汚れていたのは、晩節だけではなかったのです。

それなのに、なぜ、誰も吉本隆明の責任を追及しないのでしょうか。過った言説によって「信徒」の行動を左右し、一部の青年の生き方にまで深く影響を与えて人生を狂わせてしまった「教祖」の「結果責任」を、どうして吉本隆明に問わないのでしょうか。

◇現代労働組合研究会のHPへ（TOP）